

あんだ そ こ あい
当局、施政・施策に市民愛はあるのか?

—市政の源泉は寄り添うまなざしから—

創政・改革クラブ
倉田博之



問 通学路の危険除去対策は、着手予定さえ不明なものばかり。長期計画など大人の都合のなかで、それでも毎日子どもたちは通っている。ならばまず、今ある危険を軽減する次善策まで講じてこそ通学路安全推進会議なのでは。

答 交通規制や交通安全教育などソフト対策にも力を入れる。

問 視界不良交差点などの角地が売買物件となる時があるが、既存の優先順位のみで囚われていると、千載一遇の危険除去の好機を逃してしまう。

答 通学路安全推進会議に適時提案できるよう、検討システムを工夫したい。



産業連関表に基づく地域の産業育成策と好循環な政策運営

創政・改革クラブ
中田清介



問 市内には比較的強い産業基盤といえる宿泊業、薬品業、家具装備品業があるが、市際収支の赤字が生まれている。クリエイティブ産業の内製化でその赤字解消が可能であり、これからの成長分野でもある。地域・環境・経済の好循環な政策遂行が求められる中、今後の第九次総合計画の策定に向けての考えは。

答 クリエイティブ産業は、その特性から言って、女性や若者との親和性が高い産業と捉えている。第九次総合計画の策定に向けた準備が始まるとともに、次期産業振興計画の策定の準備や産業連関表の更新も予定している。これらの計画策定に当たっては、総合的な視点で好循環な政策遂行を意識して取り組む。



学校の枠組みを超えた郷土史部を

清和クラブ
松山篤夫



問 教育委員会の点検評価報告書の点検評価委員の意見に「部活動の地域移行においても、郷土史教育に関する文化部（例えば郷土史研究クラブ）が学校の枠組みを超えて成立してもよいのではないか、その受け皿となる団体ないし外部講師等が求められている」とあるが、市の考えは。

答 郷土教育に関わる活動は、郷土教育を推進するという観点からも魅力的である。実現するためには、活動を支えていくための受け皿となる団体、専門的な知識のある外部指導者の確保が必要である。市だけでなく地域全体での協力をいただきたい。



放課後等デイサービス（療育）について

清和クラブ
車戸明良



問 市は障がいのある児童、生徒らの自立支援や日常生活の充実、そして保護者支援のために行っている「放課後等デイサービス」の1ヶ月の利用日数の上限を23日から10日に減らしたが、利用できる回数が減少した保護者からは、生活が変化する家庭環境への影響や子どもの成長を不安視する声が上がっている。適正な利用日数を判断し決定する仕組みづくりが必要ではないか。

答 児童・生徒の状況にあった支援が出来るよう利用日数を判断する「審査会」を設置する。子どもの状況をよく把握している関係機関の方々や医師をメンバーとして想定している。必要な利用日数を審査できる組織にしたい。

